

科目名	公会計B
担当者	小林麻理
配当学期	秋学期
単位	2単位
授業概要	本講義では、マネジメント(経営管理)、言い換えると管理会計の視点から公会計の特質と問題点を明らかにし、公会計におけるアカウントビリティとステewardシップの重要性とその意義、公会計システムを有効に機能させるためフレームワーク、それを実現する管理会計アプローチ、マネジメント・ツールについて検討する。
授業の到達目標	公会計において管理会計はどのような機能を果たすか、どのような考え方を仕組みとして導入するのかについて理解し、具体的事例を検討できる能力を養う。
授業計画	<p>第1回 パブリック・セクターにおける管理会計システムの意義</p> <p>第2回 日本における公会計改革の進展</p> <p>第3回 財政改革の進展と管理会計の機能</p> <p>第4回 戦略計画と業績評価の連携システム</p> <p>第5回 パブリック・セクターにおける予算管理システム</p> <p>第6回 パブリック・セクターにおける業績評価</p> <p>第7回 政府におけるマネジメント目的の原価計算基準</p> <p>第8回 地方自治体における結果を指向するマネジメント・システム</p> <p>第9回 パブリック・セクターにおける会計情報システム</p> <p>第10回 パブリック・セクターにおけるパフォーマンスとは何か</p> <p>第11回 地方公営企業のマネジメントと課題</p> <p>第12回 公会計における経営改革ツールの適用</p> <p>第13回 受講者のプレゼンテーション及びディスカッション</p> <p>第14回 受講者のプレゼンテーション及びディスカッション</p> <p>第15回 総括</p>
教科書	特に指定しない。毎回資料を配布する。
参考文献	小林麻理『政府管理会計』敬文堂。その他授業において適宜紹介する

成績評価方法	評価基準	
試験 %		
レポート %		
平常点評価 40%	授業で取り上げた論点に関する発言の積極性と授業理解促進への寄与度、出席は原則3分の2を下回らないこと。	
その他 60%	<p>授業におけるプレゼンテーションの内容（問題設定の適切性、問題意識、アプローチ、論点整理）及びプレゼンテーションに対する質疑応答。</p> <p>本授業では、授業の後半に授業で取り上げたテーマについて自由に発表者が問題設定を行うプレゼンテーションを課しています。発表時間は25分から30分、質疑15分から20分を予定しています。</p>	
関連 URL		
備考	授業について要望、質問等は積極的に、 <a href="mailto:mariky@waseda.jp">mariky@waseda.jp</a> にコンタクトすること。	